

1963 ちくさん 10大ニュース

◎乳牛頭数3万頭突破と乳価情勢の緊迫◎

県下の乳牛頭数は、この春の統計ではついに3万頭の大台を突破し、牛乳生産は約8万2千t西日本一の実績をあげた。その反面、全国的な牛乳生産の伸びに対し、牛乳消費が足踏みして需給のバランスが悪化8月にはメーカー側は生乳価格値下げを通告した。生産者側はこれを拒否し、乳価紛争が起り、9月23日県下の酪農民代表者大会が開かれた。

◎津山家畜市場落成◎

和牛取引の改善をはかるため県総合畜連では、昭和37年度家畜市場再編整備促進事業として、津山市に大規模な近代的家畜市場施設を4月に完成した。規模の拡大により、家畜の適正な価格形成と、買手本位の市場運営をはかっている。

◎乳牛育成場、初年度事業好成績裏に終了◎

真庭郡川上村の一角、三木ヶ原に県営乳牛育成場が設置されました。今年はジャージー育成牛を63頭受入れ、10月末日まで飼育され、委託農家に帰されたが、結果は予想以上に良好でした。

◎和牛価格低落と飼育農家減少◎

37年暮れから値下り気配の和牛価格は本年に入り急落し、7月には平均価格2万5千円と34年以来の安値となった。このため和牛農家の意欲低下がみられ、飼養頭数の大減少が心配される。

◎へりによる牧野のダニ駆除◎

ヘリコプターで、放牧牛にピロプラズマ病を媒介するダニの駆除を実施した。高松団地と三木ヶ原にBHCを10g当り3kg散布した。散布後1～2時間でダニの死滅が見られ、特に三木ヶ原では完全撲滅に成功した。

◎畜産振興計画を発表◎

食生活の高度化に伴う畜産物の需要増にそなえ、畜産農家の安定を図るため6月20日、畜産振興実施計画が発表されました。この計画は昭和45年の畜産物生産額を36年の3.3倍(414億4,045万円)に伸ばそうとするものです。

◎岡山牛肉即売大好評を博す(大阪・高島屋)◎

食肉の流通過程が問題になっているおりから、岡山県では10月に、大阪の高島屋で行われた県物産展に、岡山牛肉の即売会場を設け大好評を博した。経営食肉市場からはじめて枝肉消費市場へ出荷されたもので、肉畜出荷の今後の合理化に期待されている。

◎畜産経営拡大資金制度が設けられた◎

農林漁業経営構造改善資金融通制度の一環として畜産経営拡大資金制度が設けられ、農林金融公庫から長期低利な資金の貸付が、農業者に対して、生産性の高い畜産自立経営体を育成するため行なわれることになった。

◎養鶏協会、種豚改良協議会誕生◎

本県は全国有数の養鶏県であるが、さらに一層養鶏の振興を計るために、県下養鶏関係者が一体となって諸問題を解決すべく、6月6日社団法人岡山県養鶏協会が誕生した。また10月3日、種雄豚業者、指定種豚場の関係者が種豚の改良、飼養技術の向上を図るため岡山県種豚改良協議会が結成された。

◎ジャージー導入10周年記念行事◎

岡山県にジャージー乳牛が導入されて10年目を迎えた。県ではこれを記念し、またジャージー種の多い蒜山地域の酪農振興を計り、表記行事を多数の関係者を酪大に迎えて8月に盛大に催した。